

第 128 回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成 28 年 2 月

日 時: 2016 年 2 月 26 日(金) 18:00-19:30

場 所: 神奈川大学 1 号館 301 号室

◆ 主 催: 防災塾・だるま

進 行: 中島光明

記 録: 紅林敏行

◆ 談義の会参加者: 会員 30 名

一般 0 名

計 30 名

(敬称略)



参加者報告会の風景



広島市八木地区の土砂災害現場



広島弁護士会の今田弁護士

話題: 広島土砂災害被災地レポートと神戸 1.17「追悼のつどい」(注:初めての広島訪問が実現)

報告: 防災塾・だるま会員参加者 11 名 ~小林秀樹さんから総括報告、参加者のコメント~

相原延光、池田邦昭、小林秀樹、田中晃、田中喜世美、中島光明、早川雅子、

増田佳恵、山口 章、山田美智子、植山利昭(神戸のみ参加) 各氏

広島土砂災害『忘れまい 8. 20』

阪神・淡路大震災『1. 17 は忘れない』

●広島土砂災害被災地

《訪問先》

- 八木ヶ丘町内会副会長(防災担当)
山根健治氏(写真:被災したお寺)
- 広島弁護士会災害対策委員会
弁護士 今田健太郎氏



広島市八木ヶ丘町内会:山根さん

町内会(110 世帯)の 65%が被災(死者 10 名、全壊家屋 31 軒)。防災は行政がやることと思っていました。最後は自分自身が動かねば何事もできません。後世に必ず伝えてゆく。

⇒防災は「コミュニティづくり」と「リスクとリスクマネジメント」(山口)

⇒ボランティアは SNS で人が参集、被災者の家や庭が急造の

ボランティアセンターになる。「新しい公共」の取組が広がる。(山田)

⇒斜面地の崩壊対策などが必要: 斜面地の補強その他(田中(晃))

⇒八木蛇楽地(蛇の形をした谷が崩れる土地)の意味を理解(相原)

広島弁護士会災害対策委員会:今田さん

発災当日、災害対策本部を設置、救援ボランティア派遣(315 名/40 日)。その後法律相談が円滑に進展。14 団体が構成する土業連絡会の連携(特に弱者に寄り添って活動する福祉士の専門性)が有効な活動に結びついた。

⇒何事においても平時からの準備が不可欠(中島)

元神戸市職員:松山さん

どんな素晴らしい対策も活かせるのは人の手。若い人の人材育成が大事。21 年目、原点に戻る。

中央区東遊園地『1.17』追悼のつどい(61000 人が参加)

阪神・淡路大震災(犠牲者 6434 人、行方不明 3 人)から 21 年。

震災を体験していない世代に伝えていく事が大事。

⇒竹の灯籠に、支え合っていこうという思いを感じた。(増田)

⇒故黒田裕子さんを偲ぶ会に参加。(田中(喜))

神戸市危機管理センター(池田)、神戸市灘消防署(早川)を訪問し、J-DAG の CD・チラシを提供し、活用の検討を依頼

荏本塾長

現地を観ることは大切。これからも続けていくことが重要。

●神戸 1.17「追悼のつどい」

《訪問先》

- 中央区東遊園地「追悼のつどい」
(写真:会場の風景)
- 松山順三氏との懇親会
- 人と防災未来センター 他



参考:広島市の土砂災害報告(国交省 HP)と広島市 HP 土砂災害部「外」

http://www.mlit.go.jp/river/sabo/H26_hiroshima/141031_hiroshimadoseikiryu.pdf

<http://www.sabo.pref.hiroshima.lg.jp/portal/Top.aspx>

●災害は繰返す!

●風化させない!

●教訓を活かす! (小林さん)

●次回(第 129 回)案内

・日時:2016 年 3 月 25 日(金) 18 時~19 時 30 分 ・会場:神奈川大学 1 号館 301 号室

・話題:最近の地震被害と都市災害

・講師:岩楯徹広(首都大学東京名誉教授:防災塾・だるま会員)